

2011 SUPER GT Rd,3 吉田広樹 〈マレーシア セパンサーキット〉

今回はシリーズ唯一の海外レースとして開催され、灼熱のマレーシア、セパンサーキットで行われました。私が所属するThunder Asia Racingにとってはホームコースであり、チームもより力が入ります。

また今回から土曜日午前中にフリー走行が行われ午後には予選、日曜日に決勝と2dayで行われるスケジュールとなり、予選までの短い時間にいかにマシンのセットアップを仕上げられるか？というところが大きなポイントとなります。



6月18日 フリー走行

マレーシアらしい暑さの中、フリー走行が開始されました。私はこのコースの経験が非常に少なかったため、前日にチームメイトやエンジニアと共にコースを歩き、使える縁石や各コーナーのポイントを確認しました。セッション開始と共にコースインし、周回を重ねようとした1周目、マシントラブルが発生。どうにかピットに戻ることは出来ましたが、走行中断を余儀なくされます。しかしメカニックさんたちの迅速な作業のおかげで残り45分のところでコースイン。タイヤテストなど予定していたメニューをこなすことは出来ませんでした。マシンのチェックと共にセッティングの確認します。残り時間をチーム

メイトとシェアし、15番手のタイムでフリー走行を終えることとなりました。

公式予選 DRY 8番手/19台中

今回の予選はスーパーラップ方式だったため、1回目の予選で10位以内に入る必要があります。フリー走行後ミーティングを行い、大幅なセッティング変更と前回のミスを繰り返さないようにどのタイヤでアタックするかを確認します。まずはセッティング変更をした部分の確認し、チームメイトのメルビンさんがアタック。最後の300クラスだけの走行時間に再度



<NO.1>

2011 SUPER GT Rd.3 吉田広樹 〈マレーシア セパンサーキット〉

私がアタックさせて貰える事になりました。フリー走行のときより路面状況も良くなっていますが、マシンバランスもよく徐々にタイムを上げていき、計測5周目には2'09,935というタイムで3番手につけます。最終的に4番手に落ちてしまいましたが、チーム、私自身にとっても初のスーパーラップ進出を決めることが出来ました。

そこから1時間ほどのインターバルを挟み、迎えたスーパーラップ。このスーパーラップでは各車1周ずつアタックを行い、そのタイムで上位10台の予選ポジションが決定します。私自身初めての経験でしたが、悔いが残らないよう思いっきりアタックしようとしてしっかりとタイヤを温めアタックを開始します。6台がアタックを終えた時点のベストタイムよりセクター1,2だけで0,5秒ほど速いタイムを刻んでいたのですが、セクター3でミスをしてしまいます。どうにか体勢は立て直したものの大きくタイムロスしてしまい、最終的に2'10,541というタイムで8番手となってしまいました。今回はマシンのバランスも良かっただけに自分のミスが悔やまれます。1周のアタックなので思いっきり行く必要もあると思いますが、もう少し冷静

になり、攻めてタイムが上がるコーナーとそうではないコーナーなどもしっかりと見極めて今後はアタックしていきたいと思います。

6月19日 決勝レース DRY 15位/19台中

決勝前のフリー走行では燃料を満タンにした状態で、レースセットを確認しながら走行を重ねました。マシンが重い状況だと少しバランスも悪くなりましたが、内圧の上がり方などを確認し、4番手で朝のフリー走行を終えることとなりました。レースに向けチームとミーティングを行い、今回はメルビンさんにスタートしてもらうことになりました。

午後に入っても相変わらず陽射しが照りつける中、レースがスタートしました。スタート時にメルビンさんがひとつポジションを上げることに成功しましたが、その後はミスなどもありポジションを15位まで下げてしまいました。ひとりのドライバーが走らなければならない最低周回数の15周をクリアし



2011 SUPER GT Rd.3 吉田広樹 〈マレーシア セパンサーキット〉

た時点でピットイン、私にドライバーチェンジします。前日にドライバー交代、ピットストップの練習を行っていたことや、ドライバーが交代が行いやすいように新しくシートやステアリングを用意していただいたおかげで、迅速なピット作業を行うことが出来ました。交代してすぐにクールスーツのトラブルが発生してしまったこともあります。ドライビングに集中することが出来ず、タイムを落としてしまいます。一旦落ち着いてからは徐々にタイムを上げることが出来たのですが、500クラスを譲る際にタイヤカスを拾ってしまったり、譲るポイントによっては大きくタイムロスしてしまったりと上手く順位を上げることが出来ず、15位でレースを終えることとなってしまいました。

予選順位から大きくポジションを落としてのチェッカーとなり、スポンサー様やチーム、応援していただいた皆さんにも申し訳ない気持ちでいっぱいです。ホームコースということもあったので、チームのみんなもサーキット入りした時から普段以上に気持ちが入っていたレースでした。予選、フリー走行と確実に前には進んでいると思いますが、まだまだ課題は山積みです。次は7月に菅生で行われるレースですが、しっ



かりとマシンのポテンシャルを発揮出来るように頑張りたいと思います。それでは引き続きご指導、ご支援宜しくお願い致します。

Thunder Asia Racing
吉田 広樹



<NO.3>